

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語77人 算数76人 理科77人

第5学年 国語81人 算数81人 理科81人

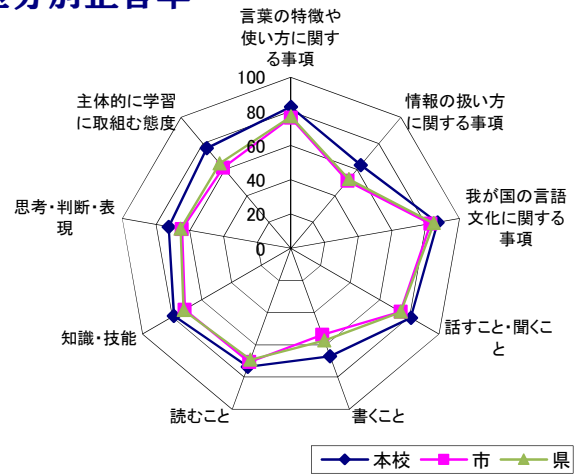
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.7	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	63.6	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	87.0	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	81.0	74.1	74.2
	書くこと	67.1	53.7	57.2
観点	読むこと	73.6	70.7	69.2
	知識・技能	78.9	71.6	72.3
	思考・判断・表現	72.5	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	76.4	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

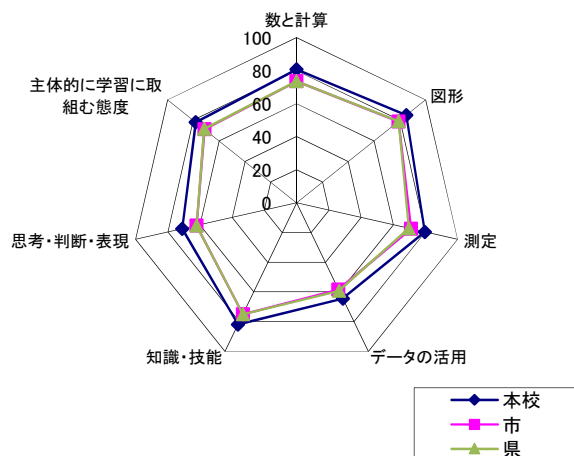
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、県の平均よりも5.7ポイント、市の平均よりも6.3ポイント高い。</p> <p>○漢字を正しく読んだり書いたりすることがよくできている。単元ごとに小テストをしたり習った漢字を文章の中で使ったりした指導を続けてきた成果と考える。</p> <p>●ローマ字を正しく読むことについては、市の平均を10.1ポイント上回っているものの、正答率が67.5%と課題が見られる。</p>	<p>・漢字ドリルや小テストを活用して反復練習を行い、定着を図っていく。</p> <p>・ローマ字については、タブレット端末のローマ字入力とも関連を図りながら学習を進めていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、県の平均よりも0.9ポイント、市の平均よりも12.1ポイント高い。</p> <p>○国語辞典の使い方をよく理解している。意味調べ等で、日頃から国語辞典を活用している成果と考える。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことについては、県や市の平均を16.3ポイント上回っているものの、正答率が50.6%と低く、課題が見られる。</p>	<p>・今後も国語辞典を日常的に活用できるように指導していく。</p> <p>・得た情報から必要な情報を選択し、自分の考えとそれを支える理由との関係を明らかにして文章を書く機会を増やしていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、県の平均よりも2.3ポイント、市の平均よりも4.2ポイント高い。</p> <p>○漢字のへんやつくりをよく理解している。新出漢字を学習するときにへんやつくりについて確認することを続けた成果と考える。</p>	<p>・今後も漢字の成り立ちや部首に着目しながら漢字への理解を深めていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は11県の平均よりも5.7ポイント、市の平均よりも6.3ポイント高い。</p> <p>○「話の中心を明確にするための話し手の工夫について捉える」ことがよくできた。</p> <p>○「相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す」ことの正答率が84%で市の平均を13ポイント上回った。自分の考えを話すときに理由を添えることを日常的に行っている成果と考える。</p>	<p>・発表や話し合い活動の場における聞き方・話し方の指導や、国語の授業での「話す・聞く」単元での学習を通して、話の要点を捉えて聞いたり話したりできるようにしていく。</p> <p>・今後も自分の考えを話すときに理由を添えることを続けていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は県の平均よりも9.9ポイント、市の平均よりも13.4ポイント高い。</p> <p>○「自分の考えとそれを支える理由を明確にして書く」ことの正答率が83.1%で、県、市の平均を13ポイント上回った。</p> <p>●「目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にして書く」ことの問題正答率は32.5%で県・市の平均を2.9ポイント下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・自分の考えを書く活動を多く取り入れていく。その際には、原稿用紙の正しい使い方や段落の構成の仕方についての指導も行うようにする。</p> <p>・得た情報から必要な情報を選択し、自分の考えとそれを支える理由との関係を明らかにして文章を書く機会を増やしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均よりも、4.4ポイント、市の平均よりも2.9ポイント高い。</p> <p>○説明文では、全体的に内容を正しく読み取ることがよくできている。</p> <p>●物語の登場人物の気持ちや場面の様子を読み取る問題では、県の正答率を1.5ポイント、市の正答率を4.5ポイント下回った。</p>	<p>・物語文では、登場人物の気持ちや場面の様子読み取れるように時間を確保し丁寧に指導する。</p> <p>・読書活動を推進し、豊かな文章にふれる機会を増やす。</p>

宇都宮市立峰小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.8	73.5	73.6
	図形	85.1	79.0	79.1
	測定	79.7	71.1	69.8
	データの活用	64.5	58.4	59.2
観点	知識・技能	81.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	71.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	78.2	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

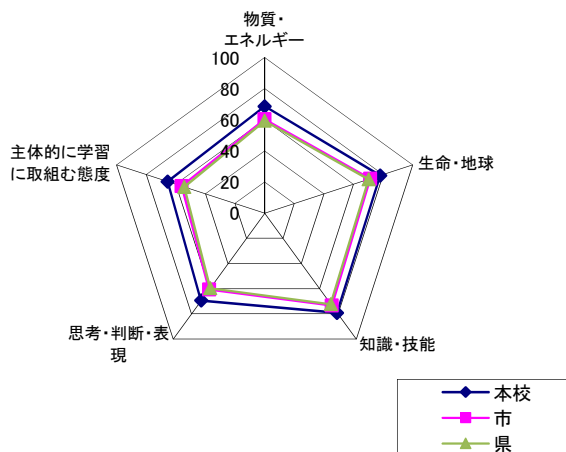
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均よりも7.2ポイント、市の平均よりも7.3ポイント高い。</p> <p>○「整数—小数第一位の計算ができる」の設問は、平均正答率が69.7%で、県の平均正答率を16.1ポイントと大きく上回っている。</p> <p>●「かけ算の筆算の出る数の意味を理解している」の設問では、平均正答率が、市及び県の平均正答率を上回っているものの、40.8%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の把握が不十分で、立式できないことがある。場面を視覚的に示す。また、テープ図など図を使って表すように指導していく。 かけ算の手順を理解していても、どうしてその答えになるかが理解できていない。その答えになるわけを説明する活動を取り入れ、繰り返し問題を解くようにする。 フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。
図形	<p>平均正答率は、県の平均よりも6ポイント、市の平均よりも6.1ポイント高い。</p> <p>○「正三角形を作図することができる。」の設問は、平均正答率が96.1%で、よくできている。</p> <p>●「球の半径から、球1つ入った箱の辺の長さを求めることができる」の設問では、県の平均を4ポイント程度上回っているが、4年生全体の課題だと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コンパスや三角定規、分度器などの使い方を丁寧に指導していく。 立体模型などの具体物を活用して、図形の性質の定着を図る。理解を深めた上で、作図や練習問題に繰り返し取り組む。 フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。
測定	<p>平均正答率は、県の平均よりも9.9ポイント、市の平均よりも8.6ポイント高い。</p> <p>○「単位の前にKがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明している」の設問では、平均正答率が77.6%で、市の平均正答率を21.4ポイント上回っている。</p> <p>●「はかりの目盛りを読み取って、果物の重さを求めることができる」の設問は、市の平均正答率を上回っているものの、62.3%と低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 重さについては、実際にはかりを使って1めもりがいつくを表しているかを考えられるようにする。 フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均よりも5.3ポイント、市の平均よりも6.1ポイント高い。</p> <p>○「棒グラフを正しく読み取ることができる。」の設問では、平均正答率が67.1%で、市の平均を9.7ポイント上回った。</p> <p>●「複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ることができる。」の設問は、市の平均を上回っているものの、60.5%と低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフにおいて、数量の大小の差だけではなく、最大値や最小値、全体的な特徴を捉えられるように、ドリルや宿題のプリントなどを活用して、繰り返し問題を解くようにする。 フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.6	60.2	59.2
	生命・地球	78.1	71.3	70.3
観点	知識・技能	79.1	73.4	72.3
	思考・判断・表現	69.4	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	65.5	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県の平均よりも9.4ポイント、市の平均よりも8.4ポイント高い。</p> <p>○磁石がものを引きつける力は、磁石と物の距離によってかわることを理解し、実験の結果を適切に説明することがよくできている。結果を自分の言葉でまとめる学習を継続してきた成果であると考えられる。</p> <p>●磁石につく物と、つかない物を答える問題の正答率は51.9%と低く、実験結果をまとめた後の知識の定着に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、実験、観察を通じて検証し、結果を自分の言葉でまとめるといった学習活動を続け、様々な物資やエネルギーの性質を正確に捉えて理解ができるよう支援する。 ・生活の中で実際に磁石を使用する際に、磁石の性質について随時触れる等し、既習事項を想起させて、知識の定着を図る。 ・フォローアップシートを活用し、習熟を深める。
生命・地球	<p>平均正答率は、県の平均よりも7.8ポイント、市の平均よりも6.8ポイント高い。</p> <p>○虫めがねの使い方が身に付いている。また、昆虫のからだのつくりについて、正しく説明することができる。</p> <p>●正午にできる影の方位を答える問題の正答率は40.3%と低く、反対の方位を回答する児童が多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの自然現象に対しての疑問をもとに学習課題を設定し、正しい方法で観察をする。 ・太陽の動きと影の方位との関係については、観察の結果をもとに、太陽の動きと影の方位とをしっかりと関連付けて考えさせ、理解が深まるように支援する。 ・フォローアップシートを活用し、習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」「学習で身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の問いに対する肯定的回答割合は、それぞれ96.1%、97.4%である。このことから、学習することへの必要性を感じ、学習への意欲が高い児童が多いと思われる。

○「自分は、家族の大切な一員だと思う」「家でのきまりや約束を守っている。」の問いに対する肯定的回答割合は、それぞれ94.8%、89.5%である。このことから、児童が各家庭で大切にされていること、家庭での基本的な生活習慣が身に付いていることが伺える。

○「自分には、よいところがあると思う。」と回答した児童の割合は84.2%と高く、児童を認め励ます教育を推進するとともに、友達よさを伝え合う活動を通して、自尊感情の育成に努めている成果と考える。今後とも、学校と家庭が連携して児童の努力や成長を見守り、よさを伸ばす指導を推進していきたい。

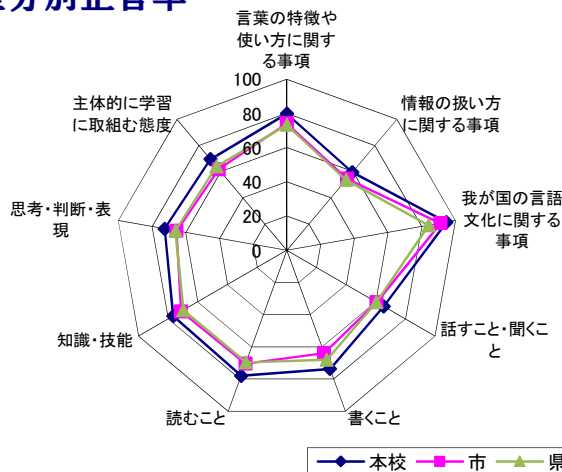
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の問いに対する肯定的回答は57.9%である。「クラスは発言しやすい雰囲気である」の問いでは86.8%肯定的回答が得られたことから、発表後、称賛する場を設けたり、小グループでの話し合いから全体での話し合いへと段階を踏むことで、自分の考えや発表に自信をもてるよう働きかけていきたい。

●「本やインターネットを利用して、学習の情報を得ている」の問いに対する肯定的回答が51.3%である。調べ学習における学校図書館の積極的な利用やタブレット端末を活用した学習を推進していきたい。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.9	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	59.6	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	94.7	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	65.3	60.6	60.4
	書くこと	73.7	63.8	68.0
	読むこと	77.9	70.4	69.6
観点	知識・技能	76.6	71.3	69.9
	思考・判断・表現	72.5	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	69.5	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

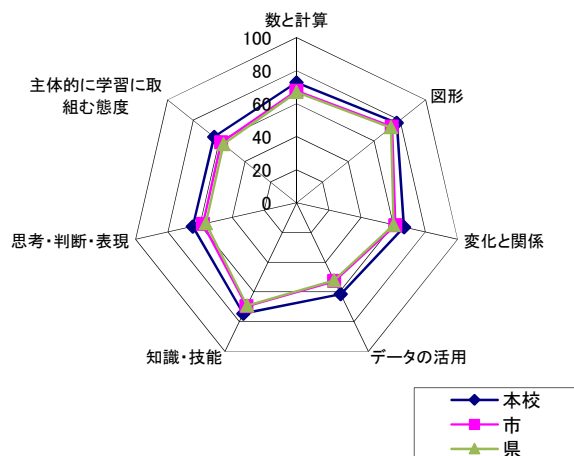
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○平均正答率は、県の平均を6.6ポイント、市の平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>○修飾語についての理解や、語彙の豊かさに関して、県や市の平均を上回っている。</p> <p>●漢字の読み書きに関しては、県や市の平均を上回っているものの、漢字を書く問題の校内平均正答率は、73.2%となっており、漢字を書く活動に課題が見られる。</p>	<p>・今後も、物語や説明文の中に出てくる言葉の意味やおもしろさを調べたり考えたりする活動を継続していき、言葉への理解を深める。</p> <p>・朝の学習などの時間に、漢字の反復練習を行ったり、50問テストや小テストに向けて日頃から漢字を練習する機会を設けたりして、習った漢字をえるようにしていく。</p> <p>・ステップアップシートを定期的実施し、習熟を深める。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○平均正答率は、県の平均を5.8ポイント、市の平均を4.9ポイント上回っている。</p> <p>○漢字辞典の使い方の理解に関しては、県や市の平均を上回っている。</p> <p>●情報と情報との関係についての理解は、市の平均とほぼ同じであったが、段落相互の関係を捉える問題の校内平均正答率は、42%にとどまった。</p>	<p>・今後も新しい単元を学習する際には、漢字辞典を使って意味調べを行うなどの活動を継続していく。</p> <p>・説明文の読み取りでは、段落ごとに内容を読み取って小見出しをつけたり、段落相互の関係を図に表したりするなどの活動を通して、視覚的に組み立てを理解できるようにしていく。</p> <p>・説明文を扱ったプリントなどを使用し、習熟を深める。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○平均正答率は県の平均を10.5ポイント、市の平均を3.5ポイント上回っている。平均正答率は高く、94.7%となっている。</p>	<p>・ことわざの意味を知り、正しく使うことができているので、さらに伸ばせるように、様々なことわざの意味を調べてまとめたり、友達同士で問題を出し合ったりする活動を通して、知っていることわざを増やし、正確に使えるようにしていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、県の平均を4.9ポイント、市の平均を4.7ポイント上回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、校内平均正答率が88.2%と、高い正答率である。</p> <p>●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、平均正答率が50%だった。</p>	<p>・話し手の中心を捉えることはできているが、その中心を明確にするための工夫が課題となっている。授業の中の様々な話し合い活動を通して、自分の伝えたいことをどうすれば相手に伝わりやすいかを考え、工夫していけるようにする。</p> <p>・国語の授業はもとより、他の教科の授業でも、調べたことや自分の意見を、相手に分かりやすく伝えるにはどうすればよいかを考えさせながら、話し合ったり発表したりできるようにしていく。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、県の平均を5.7ポイント、市の平均を9.9ポイント上回っている。</p> <p>●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、平均正答率が68.4%と低くなっている。</p>	<p>・説明文を扱う単元では、説明文の組み立て方を理解し、段落ごとの役割を知り、段落を分けて文章が書けるようにしていく。</p> <p>・授業中や朝の学習の時間、宿題などで書く活動をさらに取り入れ、その中で自分の考えや思ったこと、その根拠などを段落に分けて文章に表していけるようにする。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は、県の平均を8.3ポイント、市の平均を7.5ポイント上回っている。</p> <p>○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える活動では、校内平均正答率が高く、90%以上となっている。</p> <p>●登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する問題は県の平均を12.9ポイント、市の平均を12.6ポイント高かったものの、69.7%だった。</p>	<p>・引き続き、毎日の音読の宿題を行い、登場人物の気持ちを想像したり、文章の内容を捉えたりすることができるようにしていく。</p> <p>・物語文を扱う単元の時には、登場人物の気持ちの変化や、場面の移り変わりに関する発問を意識していく。また、その発問について、グループやペアで考え、話し合う活動を設け、理解を深められるようにしていく。</p>

宇都宮市立峰小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.9	67.8	67.0
	図形	77.6	73.9	73.1
	変化と関係	66.7	61.4	60.2
	データの活用	61.5	52.7	52.1
観点	知識・技能	74.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	64.5	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	63.9	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

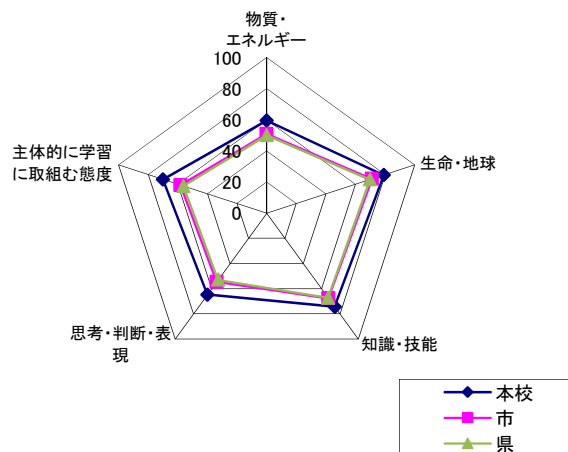
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均は72.3%となり、市の平均を5.4ポイント、県の平均を6ポイント上回った。</p> <p>○億と兆・がい数の表し方の設問では、市の平均を9.7ポイント、県の平均を9.5ポイント上回った。</p> <p>●わり算・計算のきまりでは、市と県の平均を若干上回ったが、校内の正答率は低く、55.3%に留まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の計算では、2けた÷1けたの基礎的な問題から復習を行っていくようにする。 ・新しい単元に入る前には、レディネステストを行ったり、導入で前学年での内容確認を行ったりする。 ・フォローアップワークシート等を活用して、習熟を深める。
図形	<p>○平均正答率は77.6%となり、市の平均を3.7ポイント、県の平均を4.5ポイント上回った。</p> <p>○四角形の辺の長さの性質を理解しているかの設問の正答率は82.9%で、市の平均を10.4ポイント、県の平均正答率を12.6ポイント上回った。</p> <p>●1000円札のおよその面積を求める設問では、市と県の平均正答率を若干上回ったが、校内正答率は44.7%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位の大きさについての定着を深めるために、具体物を用いながら授業を行う。また、単位変換問題にも繰り返し取り組むようにする。 ・デジタル教科書や実物投影機を活用しながら、作図の仕方を指導する。 ・フォローアップワークシート等を活用して、習熟を深める。
変化と関係	<p>○平均正答率は66.7%となり、市の平均を5.3ポイント、県の平均を6.5ポイント上回った。</p> <p>○基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ設問では、市の平均を9.3ポイント、県の平均を9.5ポイント上回った。</p> <p>●どちらの包帯がよく伸びるかを説明する設問では、市と県の平均を上回ったが、校内正答率は48.7%で、無解答率も25.7%となった。根拠を基に説明する力が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの数量の関係を式に表す問題では、図の見方や規則性を読み取る練習問題に取り組ませる。立式については、言葉の式にさせたり、図に対応するように考えさせたりする。 ・倍の概念として、具体例を出したり、具体物を用いたりしながら「基準量のいくつ分にあたるか」を考えられるようにする。 ・フォローアップワークシート等を活用して、習熟を深める。
データの活用	<p>○平均正答率は61.5%となり、市の平均を8.8ポイント、県の平均を9.4ポイント上回った。</p> <p>○折れ線グラフと棒グラフの読み取りでは、市の平均を12.9ポイント、県の平均を11.9ポイント上回った。</p> <p>●折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問では、市と県の平均を9ポイント上回ったが、校内正答率は40.8%と低く、また無解答も30.3%と高くなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の時間だけに留まらず、日常生活で目にする様々なデータを活用し、抵抗感を減らす。 ・グラフや表から読み取れることを自分の言葉でまとめる課題に繰り返し取り組ませる。 ・フォローアップワークシート等を活用して、習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.5	50.8	50.0
	生命・地球	79.1	71.1	69.8
観点	知識・技能	74.3	67.6	67.2
	思考・判断・表現	64.6	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	70.0	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○校内平均正答率は、県の平均を9.5ポイント、市の平均を8.7ポイント上回っている。</p> <p>○「物の体積と力」についての設問では、県の正答率を12.5ポイント、市の平均正答率を12.1ポイント上回った。</p> <p>●「物のあたたまり方」についての設問では、県及び市の平均正答率をそれぞれ3.5ポイント、2.1ポイント上回っているが、54.8ポイントと低かった。特に、水のあたたまり方と比較して金属のあたたまり方を考察したり、電車の冷房と暖房の吹き出し口の位置が異なる理由を空気のあたたまり方をもとに考えて説明する設問の正答率が低く、それぞれ53.9%、47.4%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループで実験を行うことで、実感を伴った理解ができるようにする。 ・実験結果をすでに行った別の実験結果と比較させることで、さらに深い考察ができるようにする。 ・実験で分かったことを身近な生活の場面と結び付けて考えさせることで、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる。 ・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。
生命・地球	<p>○平均正答率は、県の平均を9.3ポイント、市の平均を8ポイント上回っている。</p> <p>○「天気の様子と気温」についての設問では、県の正答率を12ポイント、市の平均正答率を10.2ポイント上回った。</p> <p>●「月と星」についての設問では、県及び市の平均正答率をそれぞれ4.3ポイント、3.7ポイント上回っているが、61.8ポイントと低かった。</p> <p>●「水のすがた」についての設問では、県の平均正答率を7ポイント、市の平均正答率を8.1ポイント上回っているが、水を冷やしたときの温度変化に関する設問の正答率が36.8ポイントと低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の学習時期にこだわらず、四季折々の星座を観察させるなどして、月や星の動きを理解できるようにする。 ・温度の変化を観察するような場面では、観察結果を表に記入したり、グラフで表したりする活動を通して、視覚的に変化の様子がとらえられるようにする。 ・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の設問では、肯定的な回答の割合が県の平均を8.4ポイント、市の平均を5.4ポイント上回っている。「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」の設問では、肯定的な回答の割合が県の平均を9ポイント、市の平均を5.9ポイント上回っている。授業中も、意欲的に調べ学習に取り組んだり、積極的に話し合いに参加したりする姿が見られる。今後も、さらに学習する楽しさを味わえるように、継続して指導していく。

○「将来の夢や目標をもっている」の設問では、肯定的な回答の割合が県の平均を6.7ポイント、市の平均を5.2ポイント上回っている。これは、「家の人と将来のことについて話すことがある」の設問の肯定的な回答の割合が県の平均よりも17.8ポイント、市の平均よりも14.4ポイント上回っており、家の人と将来について話すことで、将来に向けての目標や、やりたいことが明確になっていると言える。学校でも、現在の活動が今後自分のためになっていることを伝え、将来のために今自分がすべきことは何なのかを考えさせ、実行できるように指導していく。

○「ふだん(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」の設問では、一日1～4時間以上と答えた児童が、県の平均よりも13.5ポイント、市の平均よりも10.8ポイント少なかった。学校での声掛けや家庭の協力の効果があらわれているのではないかと考えられる。引き続き指導していき、利用する場合は、ルールやマナーを守って利用するようにしていく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の設問では、肯定的な回答の割合が48.1%で、県の平均よりも8.6ポイント、市の平均よりも9.5ポイント下回っている。授業でもタブレットを活用して調べ学習を進めたり、調べたことをまとめる活動を取り入れたりしている。今後、調べ学習の他にも、話し合い活動やドリル学習など、様々な場面でタブレットを活用できるように指導していく。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問では、肯定的な回答の割合が72.8%で、県の平均よりも5ポイント、市よりも5.4ポイント下回っている。話し合い活動では、意欲的に自分の考えを発表できる児童は多いので、自分の考えと比べながら友達の意見を聞いたり、友達の意見から新たな考えを見つけたりできるよう、指導していく。

宇都宮市立峰小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力の育成	様々な場面で書く指導の充実を図っている。学年の実態に応じて、書くテーマや内容項目、字数など条件に合わせた作文指導を行っている。	4・5年生ともに国語科の書くことの領域における正答率が県や市の平均と比べて5ポイント以上上回っている。実験結果やグラフ等の情報をもとに根拠を明らかにして書く設問の正答割合は県や市平均とほぼ同じではあるが高くない。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初めに「家庭学習の手引き」を作成し、その中で曜日ごとの学習時間の予定を立てるなどして、計画的に学習を意識させている。家庭学習ががんばり週間を設け、継続的な家庭学習への取り組みを促している。	4・5年生ともに、「家で、学校の宿題をしている」に肯定的に解答した児童の割合は96%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定割合は65%未満で県や市の平均を下回っている。